

佳作

光の力

千葉県 流山市立流山北小学校二年 飯嶋 遥琉

この夏休みにかぞくで花火大会を見に行きました。ざんねんなことに雨がふっていましたが、雨にもまけず空高く打ちあがる花火はまるで光のシャワーのようでした。

「ドーン、ドーン、バーン。」

と花火の音が大きくてしんぞうがバクバク、ドキドキしました。なかでも金色に広がる太ようのような花火がわすれられません。

小さいころは、花火の音が大きくてこわくてないたこともありました。二年生になり花火のきれいさだけでなく、みんながニコニコえがおになり、元気をあたえるような力があるとかんじました。

また、かぞくに花火にこめられたねがいがあるときました。たとえば、なくなった人たちが空でしあわせにすごせることや、せんそうやしんさいがいなどがくりかえされないようにといういみがある

そうです。

夏休みにある本をよんで、平和といういみをしりました。せんそうのことをきき、とてもこわくなりました。こうしてかぞくとすごせることやまいにち学校にたのしくかよえること、ともだちとあそべたり、おいしいごはんがたべられることはふつうでないことをまなびました。

あのおそろしいせんそうから八十年たちました。ぼくにできることは、かぞくやともだちをたいせつにして、ものをたいせつにすること。ぼくは、にがてなたべものが多いのでなるべく、すききらいをしないでたべられるようにし、自分ができることをこれからしようと思いました。

見ている人たちのいろいろな思いがたまって空に打ち上げられていることにかんどうしました。そんな花火にこめられた思いをたいせつにし、いつまでもみんながえがおでいられるような生活がずっとずっとつづいてほしいです。

またらいねんもかぞくで花火を見に行きたいです。かぞくで見た花火が、ぼくにとって一番の思い出です。